

3 各事務室報告

3.1 図書館総務事務室

図書館総務事務室は、事務分掌内規に基づき教育・研究計画書、自己点検・評価、4 図書館運営の調整、図書や雑誌等の調達・受入・整理・登録・除籍、刊行物発行、図書館システム管理・運用、図書目録、統計調査、委員会等の会議運営、業務委託・電子資料等の契約、予算の要求・経理・決算、そのほかの庶務等を分掌する。理事会・学部長会等審議案件の上程、調達依頼等の学内手続き、学外関連団体との渉外業務等も担当している。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、通常とは異なる対応を迫られた 1 年であった。臨時休館や開館時間制限等のなかで、学生・教員に向けた資料提供のための郵送サービス等を行うため、予算確保の調整を行った。教学サイドからの図書館開館に対する強い要望を受け、感染防止対策を十分施しながら開館サービスの範囲を広げるための措置や消耗品購入などに予算を費やした。一方、臨時休館や開館時間縮小、また諸室利用制限等により空調稼働時間や人の動きによる空気の流れが少なくなったことから、カビが各所で発生し、カビ除去等にも予算が費やされた。さらに、学外利用者の利用停止期間が長期に及んだため、利用登録料の返金も行った。

特色あるコレクションについては、西江雅之文庫のほか、文庫形成をしない大型寄贈についても整理を行った。2017 年度に寄贈受入をした大岡信先生旧蔵書について、図書の整理計画を検討した。図書以外の原稿等、家具等のご遺族へ返却し、美術品の一部は神奈川近代文学館へ再寄贈した。学内公募による高額資料の購入については、予算の逼迫から 2020 年度も行わなかった。

蔵書を活用した調査研究による成果物の刊行について、2019 年度断念していた計画を進める予定であったが、全国の各図書館においても臨時休館等となったため、資料の利用が十分にできず、調査・執筆が遅滞した。2020 年度も刊行を見送ることになったが、引き続き調査研究・執筆を進め、次年度の刊行とする。

また、職員人事異動が頻繁に行われる中で、図書館職員の人材育成が課題となっているが、図書館新任職員のための研修を体系的に実施することとした。

このほか、当事務室では、2009 年度から明治大学東京国際マンガミュージアム(仮称)設置計画に関する事務、その先行施設として米沢嘉博記念図書館と現代マンガ図書館の運営、マンガ図書館運営委員会の事務局を兼務している。2019 年度に現代マンガ図書館の資料を駿河台キャンパス内に移転し、2020 年度は、米沢嘉博記念図書館との複合的開館の準備を進め、2021 年 3 月 19 日より再開館した。

(1) 目録・装備業務委託

目録・装備委託業者は 2010 年度に切り替わり 11 年目を迎えた。毎月定例会を開催し、実績報告、業務効率アップ、品質維持向上等について協議している。継続することによりスキルが安定・向上し、新刊書だけでなく特色あるコレクション整理の戦力ともなっている。

2020 年度は新型コロナウイルスによる感染症の影響により、冊子体新刊図書の購入冊数が大幅に減少した。そのため代替作業として、大岡信先生旧蔵書(寄贈図書)の重複調査を行った(3,950 冊)。

また、本学は NII の総合目録データベース(NACSIS-CAT)に参加しているが、2020 年 8 月、新目録所在情報システムの CAT2020 運用開始により図書目録データに大きな変更があった。当初は混乱もあったが徐々に軌道に乗りつつある。

(2) 特色あるコレクションについて

●西江雅之文庫

2015 年度、文化人類学者の故西江雅之氏旧蔵書が寄贈され、「西江雅之文庫」として 2016 年度より整理を開始した。アフリカーンス語、アムハラ語、クレオール語、スワヒリ語、ネパール語、キクユ語、ヒンディー語、マレー語等、世界中の様々な言語による図書が含まれるのが特徴である。2020 年度は洋図書 1,915 冊の整理・装備作業を行い、全ての整理を終了した。受入総冊数は 6,718 冊(和書 786 冊・洋書 5,932 冊)である(和泉図書館に収蔵)。

●岩井憲幸名誉教授(元文学部教授)旧蔵書

2016 年度、岩井憲幸名誉教授(元文学部教授)より故千野栄一氏(言語学者・東京外国語大学名誉教授)旧蔵書を含む図書の寄贈があった。大半が東欧諸言語による図書であり、2017 年度より継続して整理を行ってきた。2020 年度は 112 冊の整理・装備作業を行い、全ての整理を終了した。受入総冊数は 1,007 冊(和書 22 冊・洋書 985 冊)。文庫を形成せず、一般請求記号で配架されている(中央図書館・生田保存書庫に収蔵)。

●故池上忠弘氏旧蔵書

2019 年度、英文学者の故池上忠弘氏（成城大学名誉教授）旧蔵書が寄贈され、2020 年度に整理を行った。受入総冊数は 529 冊（和書 3 冊・洋書 526 冊）。文庫を形成せず、一般請求記号で配架されている（和泉図書館・生田図書館に収蔵）。

(3) 図書受入・検収業務

受入状況については、1.1 新型コロナウイルス感染症への対応（4）を参照。

会計監査・内部監査で指摘があった業務フローの改善は、現行可能な範囲で全て適用し、順調に機能している。

(4) 雑誌受入・検収・整理業務

受入状況については、1.1 新型コロナウイルス感染症への対応（4）を参照。

NII 登録所蔵一括更新（本年度は和雑誌）ほかの業務委託によるデータ整備は、例年通り実施した。

(5) 電子資料契約関連業務

既契約データベースの見直し業務として、価格の大幅な高騰が続いている物質科学関連分野のデータベース「SciFinder」の後継製品である「SciFinder-n」の 2021 年度以降の継続導入可否について、理系学部教員・大学院生にアンケートを実施した。アンケートの実施にあたり、代替製品も合わせてトライアルを実施し、それぞれの製品のオンライン操作説明会を行った。また、関係する教員に趣旨を理解してもらうため、理工学部では応用化学科会議において図書館総務事務長から、農学部では教授会において図書委員から、それぞれ説明を行った。アンケートには教員 10 名、大学院生 19 名からの回答があり、希望者多数により「SciFinder-n」に切り替えて契約を継続することとした。

また、データベースの利用促進事業として、就職キャリア支援センターと共催し、就活データベース講習会（オンライン）を開催した。2 日に分けて 2 種類のデータベースを紹介し、それぞれ 263 名と 187 名の参加があった。

(6) リポジトリ業務

2020 年度の明治大学学術成果リポジトリへの論文登録数は、紀要 611 件、博士論文 55 件、学術雑誌論文 31 件、その他 2 件であった。特に学術雑誌論文の件数は昨年度の 6 倍と大幅に増加した。引き続き学内におけるオープンアクセス方針の周知を図り、コンテンツ数の増加につなげたい。また、本学リポジトリシステムの新たな機能として、論文 PDF にメタデータ項目を利用したカバーページを付与する改修を行った。

(7) システム関連業務

図書館業務基幹システムを稼働している仮想基盤について、リプレイス作業を行った。該当機器は 2014 年に導入し、リース延長を経て 6 年目を迎えていた。さらに管理用ミドルウェアの延長サポートが終了するとの報告もあり、機器の老朽化も踏まえリプレイスを実施した。リプレイス後は現状より機器台数減となったが、機器単体の性能向上により現状のパフォーマンスが維持され構成の最適化ができている。2021 年 4 月末時点で大きなトラブルもなく運用できている。

年度末には館内 OPAC 端末の一部リプレイスを実施した。現状が非常にレガシーなシステムで稼働しておりセキュリティのメンテナンスが困難なことから、WEB 上で設定を一括管理でき、セキュリティパッチも自動で適用できる仕組みを導入した。現状トラブルなく運用できている。2020 年度に約半数の入れ替えを実施。2021 年度以降に残台数のリプレイスの実施を予定している。

蔵書点検用ハンディターミナル端末及び蔵書点検システムのリプレイスの検討、一部テスト機の運用も実施した。現状のものは操作運用手順が煩雑であり、不要な機能も多く仕組みが複雑なことが原因での障害も散見された。新システムではバーコード及び OCR の読み取り方法並びにデータ管理方法をシンプルな仕組みとすることでトラブル減少を図った。スキャンハンドルも組み合わせることで操作性の向上も図った。試験的に中央図書館にて使用テストを行い、一部軽微な課題はあるものの業務効率の改善が報告された。2021 年度以降に細かな仕様修正を実施後、各キャンパス図書館へ配布する予定としている。

3.2 中央図書館事務室

中央図書館は、創立 120 周年記念事業の一環として建設され、2001 年 3 月 16 日に開館してから 20 年を迎えた。その当時の最新機器だったものの老朽化が目立ち、部品交換等のメンテナンスの機会が増えてきた。また、開館当初余裕のあった開架や書庫の書架は狭隘となっており喫緊の問題と認識しているが、コロナ禍ということもあり、電子資料の有用性を考えながら、現物資料と電子資料の蔵書計画を進めていかなければならない。

業務体制は、専任職員 8 名、短期嘱託等 4 名、業務委託スタッフ〈統括・責任者含む〉27 名(2020/12 月現在)により、通常業務に加え、コロナ禍における新しいサービスや、館内利用において安全な環境づくりにも対応しながら運営した。中央図書館は、他の図書館事務室と連携し、コロナ禍での開館準備や新しく実施したサービスをとりまとめて実行するなど、ハブ的な役割を担っている。

(1) 開館日数・入館者数等

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応 (1) 参照。

2020 年度の開館日数は、333 日の開館(32 日定例休館)を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、開館予定日 80 日を臨時休館へ変更、定例休館を 1 日開館へ変更としたため、結果、254 日の開館(111 日の休館)となった。10 月 30 日は、本学キャンパスへの爆破予告により全学的にキャンパスを閉鎖することとしたため、図書館は 12:30 に臨時閉館することとなった。図書館が開館以来、一年の 1/3 弱が閉館となったのは初めてのことであり、図書館員の誰も経験のない、急な対応を強いられることとなった。入館者数も学内授業がほとんどオンライン授業となったこと、またキャンパス内への入構制限のため学内者のみを入館利用可としたことから、入館者は昨年度と比較し、90% 減の 48,419 名となり、劇的に減少した。

また、図書館への入館利用ができないことから、教員・学生への図書館サービスとして、「図書郵送貸出」「所蔵雑誌複写郵送」「ILL 複写郵送」サービス等の依頼をオンラインで受付し利用者へ送付するサービスや「国立国会図書館(NDL) デジタル化資料送信サービスのメール予約(7 月～11 月まで受付)」を新たに実施した。

例年どおり予定していた春学期および秋学期開始時期開催していた各種ガイダンスは、密集を避けるため中止とした。

(2) 教育・研究支援

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応 (2) 参照。

(3) 企画・展示

コロナ禍に伴って、臨時休館となったことから、各種イベントの開催を中止としたが、就職活動を開始時期に合わせて、就職キャリア支援センターと共催にて「就活のためのデータベース講習会」を 10 月と 12 月に 1 回ずつ、Zoom Webiner を使用したオンラインによる講習会を開催した。なお展示については、明治大学シェイクスピアプロジェクトとのコラボしたシェイクスピアに関する図書と、大学全体で取り組んでいる SDGs に図書館が協力し「SDGs おすすめブックリスト」を電子図書展示「ナラベル」を使用して HP 上で公開した。また、図書資料に付属している帯を利用した「帯 de 推し!」による展示を再開し、更に新規に明治大学広報「本棚」欄へ掲載された図書を展示し、所蔵資料の利用促進を図った。

(4) 施設・設備

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応 (3) 参照。

一斉臨時休館から、6 月の各地区図書館の短縮・限定開館にあたり、館内での混雑を避けるため、急きょ中央図書館事務室の閲覧担当が中心となって大学のポータルシステム(Oh-o!Meiji)を利用した入館予約システムを構築し運用した。併せて、各種郵送サービスの受付システムについても、新しいサービスの運用検討と並行して各地区閲覧担当が協力し、大学のポータルシステム(Oh-o!Meiji)や Microsoft Forms の使い勝手を検証しながら構築することとなった。

コロナ禍による、図書館開館再開時には、明大通り口から図書館へ直接入館となったため、大学入構時の全体的な対応として非接触型体温計(三脚設置型)を図書館ゲート入口前に設置した。後に図書館入退館のルートが平日はリバティタワーの入口を経由するように変更となったため、平日のみ図書館に設置した非接触型体温計は撤去となった。

コロナ禍で、館内での利用が少なくなったことと、館内の空気の入替えを行うため空調の換気量を増やし

て運用したため、各什器や図書にカビが発生し、各什器については業務委託業者、図書については資料のカビ除去を専門とする業者によりクリーニングを施した。

老朽化については、過年度からマイクロ搬送機の保守点検を実施しているほか、中央図書館の利用者用シースルーエレベーターが部品の老朽化により故障したため、エレベーター油圧装置を交換した。

予算計上していた書架狭隘化に伴う書架を B2 に増設した。

(5) 蔵書

選書については、2 各種委員会報告の中央学習用図書選書分科会を参照。

除籍については、書架狭隘化が喫緊の課題となっているため、外部倉庫の導入を次年度の計画として準備したが、予算が付かなかった。その代りに年度内の除籍数制限を超えて除籍してよいとの許可を得たため、例年よりも多くの除籍を行った。

【2020 年度除籍（固定・簿外）】

第 1 回（6 月実施） 4,513 冊（和図書：3,795 冊，洋図書：718 冊）

第 2 回（12 月実施） 16,493 冊（和図書：9,377 冊，洋図書：7,116 冊）

●シラバス本コーナーの廃止

中央図書館では、1999 年度より、学部シラバスの参考書欄に掲載されている図書を、シラバス本コーナー（貸出不可）に 1 冊、開架に 1 冊購入し利用に供してきたが、当コーナーに配架している資料の利用頻度が極度に低いため、2019 年度に廃止とした。2020 年度からは開架分のみ購入することとした。

(6) 社会連携・地域貢献

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応（5）参照。

(7) 上記以外の特記事項

●中央図書館ギャラリー展示

コロナ禍に伴って、臨時休館となったことから、2019 年度末から引き続き実施していた「神田発信！大学スポーツの軌跡」：1/24 ～ 4/12 は、途中で中止となった。また、図書館の利用制限での運用が続いていたため、ギャラリー展示は行わなかった。

●ローライブラリーと法科大学院生・法学研究科院生の利用

コロナ禍に伴って、ローライブラリーも 2020 年 4 月 8 日より閉室となった。中央図書館の開館再開にあわせて開室再開も可能であったが、専門職大学院の担当者を通じて法務研究科執行部へ開室するか否かについて確認したところ、授業のほとんどがオンラインでの授業のため学生が大学へ通学していないという理由より、2021 年 3 月 31 日まで閉室とした。なお、ローライブラリー閉室中のローライブラリー所蔵資料の利用については、中央図書館貸出カウンターにて出納方式にて、ローライブラリー利用者以外の利用者についても利用できるように対応した。

3.3 和泉図書館事務室

新型コロナウイルス感染症への対応は、2020 年 2 月に手指消毒剤を置くことから始まったが、3 月に入り見る間に拡大し、2020 年度は開始早々に緊急事態宣言が発出され、約 1 か月の臨時休館からのスタートとなった。大学図書館だけでなく国立国会図書館を始めとして多くの図書館がサービス変更あるいは休館する中、感染症等の状況、またそれに対する本学の方針を踏まえ、できるサービスは何かを全館で模索し、業務委託先の協力を得ながら当たった 1 年であった。

(1) 開館日数・入館者数等

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応（1）参照。

(2) 教育・研究支援

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応（2）参照。

(3) 企画・展示

例年どおり、新年度の開始、新入生に向けて準備を進めていたものの、4 月早々に緊急事態宣言が発出され、

その後もオンライン授業でキャンパスに学生はなかなか戻らなかったため、春学期はすべての活動を中止した。秋学期に入って、一部、対面授業も行われるようになり、職員によるおすすめ本コーナーの運用を再開したが、来館者は少なく、その他の企画、ギャラリーでの展示については再開を見送った。

(4) 施設・設備

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応 (3) 参照。

開館から 9 年が経過し、日常の利用から生じる不具合については、適宜、修繕を行っている。デジタルサイネージ、一部の閲覧席椅子については、交換に向けて予算要求を行ったが、予算の獲得まで至らなかった。

(5) 蔵書

例年どおり、蔵書点検、除籍処理をそれぞれ年 2 回行った。そのほか行った主な項目は以下のとおりである。

- ・江波戸コレクションの音楽関係資料について、2018 年度に作成した指針に基づき、整理準備作業を進めた。
- ・生田保存書庫に仮置きしていた蔵書約 12,300 冊の取り扱いについて検討し、配架変更等の作業に着手した。
- ・マイクロフィルムの劣化に伴い、デジタル化を行った(『(巖谷) 小波日記』)。
- ・シラバス本コーナーの廃止に伴い、関係フロアの書架移動を行った。

(6) 社会連携・地域貢献

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応 (5) 参照。

(7) 上記以外の特記事項

11 月の休館日に当館を火災発生場所と想定した防災訓練を実施してもらい、参加した。当日は館内の防火設備がどのように作動するかについても体験し、事後、関係者の認識合わせ、設備の運用見直しなどを行った。今後も定期的の実施していきたい。

また、コロナ禍で当たり前になったオンラインでのコミュニケーション、需要が急増した電子ブックなどについては、柔軟性を持って館運営、資料構築に取り込んでいく。

3.4 生田図書館事務室

生田図書館は、緑豊かな多摩丘陵高台にある生田キャンパスの東側中央に位置する。同キャンパスでは、理工学部・農学部の授業・実験等の教育・研究展開により、学生が長時間キャンパスに滞在しており、その教育・研究支援並びに終日滞在型キャンパスライフスタイルの快適性・利便性支援の一翼を担うのが生田図書館である。2020 年度は新型コロナ感染拡大防止策を取りながら、学修支援、教育支援、研究支援を行った。

(1) 開館日数・入館者数等

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応 (1) 参照。

(2) 教育・研究支援

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応 (2) 参照。

●ガイダンス及び図書館リテラシー教育の実施

2020 年度の新入生図書館ガイダンスは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行わず、生田学生支援事務室と共同で『図書館利用案内』、『らいぶ』のみの配布にとどめた。10 月 7 日から「館内ツアー動画」を Oh-o!Meiji にて配信を開始した。また、新任教員ガイダンスは資料配付のみとし、毎年実施している「スタンプラリー」「フリー図書館ツアー」は中止とした。

図書館ゼミガイダンスは、教員からの申込みにより演習授業内で実施しているが、2020 年度はオンライン教材を提供し、その中で OPAC 検索、各種データベース検索など図書館利用について説明を行った。春学期のガイダンス実施は 12 件(理工学部 9 件、農学部 3 件)であった。秋学期は実施されなかった。

また、2020 年度も農学部からの依頼により、食料環境政策学科の初年次教育科目「基礎ゼミ」(受講者 148 名)、および農学科の「農学基礎実験」(受講者 151 名)、更に理工学部の「基礎機械工学 2」(受講者 108 名)にオンライン教材(「図書館利用法と新聞記事検索演習」,「図書館を活用したレジュメ・レポート作成と文献検索演習」の 2 コマ)を提供し、授業は教員が行った。

なお、オンラインで「SciFinder」「Web of Science」「英語論文投稿講座」の講習会を実施するとともに、生

田図書館主催で「論文の探し方講座」「スマホ就活情報収集講座（就職キャリア支援事務室との連携）」をオンラインで開催した。

(3) 企画・展示

2020 年度生田図書館 Gallery ZERO の展示企画については、生田図書館ギャラリー運営部会にて展示スケジュールが決まっていたにもかかわらず、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からギャラリーを閉室とした。そのため、一部を除き予定していた企画展示の中止またはオンライン展示への切り替えにせざるをえない状況となった。

●特集コーナーの企画

期間毎に設定したテーマについて関連資料を「新着図書コーナー」隣の書架に配架し、利用者に読書に親しんでもらう機会とした。2020 年度は以下の 6 企画を実施した。2020 年度から「ナラベル」を使って、オンラインでの図書の紹介を行った。

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 夏の読書 | 7/31（金）～9/30（水） |
| 2 緑陰図書：教員おすすめ本 | 7/31（金）～9/30（水） |
| 3 秋の読書 | 10/1（木）～11/30（月） |
| 4 音楽を楽しもう | 12/1（火）～2021/1/31（日） |
| 5 演劇の世界 | 12/1（火）～2021/1/31（日） |
| 6 ようこそパラサイトワールドへ | 2021/2/1（月）～3/31（水） |
- ーあなたに巡りあうまでー

●読書のススメ（本への誘い）コーナーの企画

新聞見出しに頻出する記事や WEB での話題から生田図書館の蔵書をピックアップし、学生の読書へのきっかけを提供した。2020 年度は以下の 14 企画を実施した。2020 年度から「ナラベル」を使って、オンラインでの図書の紹介を行った。また、「本への誘いコーナー」の総まとめとして年度末（2021/3/1（月）～4/30（金））にギャラリー前室にて全企画の図書リストとともに展示を行った。

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1 シンプルな暮らし | 4/3（金）～5/1（金） |
| 2 フェイクニュース | 5/22（金）～6/12（金） |
| 3 心にひびく言葉 | 6/12（金）～7/3（金） |
| 4 社会運動 | 7/3（金）～7/24（金） |
| 5 散歩するなら… | 7/24（金）～8/21（金） |
| 6 自伝 | 8/21（金）～9/11（金） |
| 7 大量廃棄社会 | 9/11（金）～10/2（金） |
| 8 食べ物の彩 | 10/2（金）～10/23（金） |
| 9 えほんえとせとら | 10/23（金）～11/13（金） |
| 10 AI と社会 | 11/13（金）～12/4（金） |
| 11 クラシック音楽 | 12/4（金）～2021/1/8（金） |
| 12 植物のある暮らし | 2021/1/8（金）～1/29（金） |
| 13 免疫力 | 2021/1/29（金）～2/19（金） |
| 14 文具の魅力 | 2021/2/19（金）～3/12（金） |

特設コーナー（特集テーマ）

- | | |
|-----------|----------------------|
| 1 明智光秀 | 4/1（水）～6/15（月） |
| 2 直木賞・芥川賞 | 6/24（水）～9/15（火） |
| 3 新書ノススメ | 9/19（土）～11/14（土） |
| 4 戦争 | 11/20（金）～2021/1/9（土） |
| 5 直木賞・芥川賞 | 2021/1/16（土）～2/20（土） |
| 6 海外映画原作 | 2021/2/20（土）～3/29（月） |

(4) 施設・設備

新型コロナウイルス感染症関連事項は 1.1 新型コロナウイルス感染症への対応（3）参照。

地下 2 階書庫設置の電動集密書架のうち、設置から 30 年以上が経過したものについて、2018 年度から 2020 年度まで 3 ヶ年計画で、電気制御部品の更新工事を実施し、2020 年度で対象書架すべての更新作業が完了した。また、電動集密書架のスポット点検の一環として、2020 年度は地下 2 階書庫（更新済書架を除く）の電動集密書架点検を実施した。

この他、生田保存書庫資料の保存対策の一環として、年度末に地下 2 階保存書庫の一部のエリアを対象に除菌作業を実施した。

(5) 蔵書

生田図書館【2020 年度除籍（固定・簿外）】

第 1 回（6 月実施）1,290 冊（固定 1,069 冊，簿外 221 冊）

第 2 回（12 月実施）12,191 冊（固定 11,599 冊，簿外 592 冊）

生田保存書庫【2020 年度除籍（固定・簿外）】

第 1 回（6 月実施）なし

第 2 回（12 月実施）2,205 冊（固定 1,912 冊，簿外 293 冊）

(6) 社会連携・地域貢献

川崎市図書館との相互協力

2014 年 1 月に川崎市立多摩図書館長の呼びかけで始まった「多摩区 3 大学（明治大学，専修大学，日本女子大学）図書館・川崎市立多摩図書館連携状況連絡会議」は、2020 年度は以下の日程で 2 回開催された。2 回とも会議は対面で行った。

第 1 回 7 月 29 日（水）会場：川崎市立多摩図書館

第 2 回 2021 年 3 月 17 日（水）会場：川崎市立多摩図書館

なお、日本女子大学西生田キャンパスが 2021 年 4 月に目白キャンパスへと移転するため、日本女子大学が本会議に参加するのは最後となる。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から学外者の利用を 2020 年 4 月 8 日（水）から停止としたため、多摩区 3 大学並びに川崎市民の図書館利用ができない。

2016 年度からの統計推移は以下のとおりである。

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
LC 作成数	49 名	45 名	78 名	60 名	0 名
入館者数	5,032 名	3,375 名	3,781 名	4,797 名	58 名
貸出冊数	2,147 冊	2,193 冊	2,115 冊	2,100 冊	40 冊

3.5 中野図書館報告

2020 年度、中野図書館は開館から 8 年目を迎えた。主に、国際日本学部、総合数理学部と国際日本学研究科、先端数理科学研究科の利用者の学習・研究の支援を行っている。明治大学図書館の中では一番小さな図書館であるが、他の図書館にはないマンガ・アニメ関連の蔵書や国内外の写真集コレクションなど揃えている。

業務体制は、専任職員 2 名、派遣職員 2 名、業務委託スタッフ 10 名で運営した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種対策など、図書館担当職員は 2 名であったが、中野キャンパス事務室のサポートのおかげで適切に設置することができた。

6 月 1 日以降に再開館してからは、入館者数は少ないものの、中野キャンパスの学生・教員以外にも、他キャンパス所属の利用者も一定数あり、他図書館と同等の図書館サービスの提供に尽力した。

(1) 開館日数・入館者数等

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応（1）参照。

(2) 教育・研究支援

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応（2）参照。

4～5月初めにかけて、10種類のゼミガイダンス用の説明動画を作成し、中野キャンパス所属教員へ提供した。春学期は18件・秋学期は11件の希望があった。

(3) 企画・展示

イベントについては、例年、春・秋学期で実施しているクイズラリーについては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。テーマで選んだ2冊の本が入った「としょかん福ぶくろ」については、11月13日から1月6日まで実施し、38袋合計76冊が貸し出された。

読書推進活動としては、図書館スタッフが作成する「おすすめ本棚」の展示を12回行った。入館ゲートすぐの場所にある展示架に効果的なディスプレイとともに本を展示し、新たな読書機会の場を提供した。「新聞書評図書ミニ展示コーナー」では本の紹介ポップをつけ、貸出されたらその都度補充を行い常時展示している。書評や図書館からのお知らせを記載した「図書たより」は43号から49号まで発行した。

(4) 施設・設備

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応 (3) 参照。

7月29日にデジタルサイネージの機器交換作業を行った。(和泉図書館で使用したサイネージの部品を再利用。)また、11月頃より館内放送機器の異音が発生し閉館放送に支障がでた。開館して8年目となり、館内施設・設備にすこしずつ劣化がでてきている。

(5) 蔵書

2021年3月31日現在の中野図書館蔵書数は55,675冊(簿外図書も含む)であった。オンライン授業中心となったため図書の発注にも変化があり、学生からの購入依頼件数は前年に比べて大幅に減少し13件のみだった。また電子ブックを積極的に発注し、2019年度は10件だったが2020年度は107件と大幅に増加した。例年通り本屋大賞や文学賞受賞作品、新聞書評本等も購入した。

ここ数年、収容可能冊数を超える蔵書数となっており積極的に除籍等を行っている。書架狭隘化の対策として、2016年から行っている生田保存書庫への移転は、利用頻度の少ない図書を抽出し1,170冊の移転を実施した。

(6) 社会連携・地域貢献

1.1 新型コロナウイルス感染症への対応 (5) 参照。

中野区立中野図書館へ大学刊行物を不定期に送付している。